

**TOKYO FMの緊急アンケート企画「モバイル・ジャッジ」
鳩山首相退陣で民主党に逆風？！
鳩山首相辞任は7月の参院選で民主党に不利にはたらく=6割超**

TOKYO FM では、6月2日の鳩山首相の退陣表明を受けて、リスナー参加型の緊急アンケート『モバイル・ジャッジ』を実施し、6割を超えるリスナーが、『この鳩山首相の辞任は7月の参院選で民主党にとって不利にはたらく』と回答しました。

TOKYO FMでは、鳩山首相の退陣表明を報道後、「シナプス」(月一木 13:00～)、「4ROOMS」(月一木 16:00～)といった各ワイド番組で緊急アンケートを実施、午後7時からの報道コーナー「TIME LINE」を1時間に拡大して報道特集を放送、ジャーナリストの上杉隆氏、岸博幸氏(慶應義塾大学大学院教授・元経済産業省官僚)を招いて事態の解説と今後の政局展望をはじめ、民主党の生方幸夫副幹事長、横糸勝仁衆議院議員ら民主党内部の声をはじめ、リスナーや街の声など、様々な意見を伝えました。

今回問いかけた質問は・・・

**鳩山首相の退陣表明、小沢幹事長も辞任へ・・・
7月の参院選、民主党にこの辞任はどう影響すると思いますか？**

<<集計結果>> : アンケート参加者数 596人

- ①プラスに影響する 16%
- ②影響はないと思う 21%
- ③マイナスに影響する 61%

①「プラスに影響する」と回答した人の主な意見

- 辞任し体制を一新した方が国民感情としてはプラスに働くと思う。ただ辞任しても民主党の本質や普天間問題等は何も変わらないので、仮に参院選で民主党が負けた場合、政局は大混乱に陥ると予想される(20代男性)
- 今までの自民政権での安部さん・福田さんと比べたら遥かに理由も明確で潔い決断だと思います。若い優秀な人材が党首なり幹事長などをやり新しい第二次民主党を作っていく事を望みます。しがらみのない党運営 国会運営をしてほしいです(30代男性)。

②「影響はないと思う」と回答した人の主な意見

- 現状ではどの党に入れていいかわからないくらいの状況。外務省問題の表面化、子供手当などを含めても自民政権ではできなかった事を民主党は行動をしており、政権交代からまったく新しい取り組み、実績を投じてない訳ではないのもう少し、民主にやらせてもいいのでは？と思っている有権者も多いのでは？(30代男性)
- 二人がやめても、民主党にとって選挙は厳しい状況であることに変わりはないと思う。参院選は行こうとは思っているが、投票したい人および政党がありません(30代男性)

③「マイナスに影響する」と回答した人の主な意見

- 民主党に期待していたのに、期待はずれで残念(30代女性)
- 民主党政権では誰がやっても同じ。政策が危うすぎる。日本の将来のことなんかこれっぽちも考えていない(30代男性)
- 耳障りだけ良く、出来もしない選挙公約と、政治とカネの問題も残したまま、言わば『丸投げ』状態で首相を辞任しても、民主党にとって何のプラスにもならないと思う。政権が変わって、日本も何かが変わるかと思ったら、今回も短命政権で「またか…」というのが、率直な気持ちです(40代男性)
- 確かに、やめるべきではあったが、時期が遅い。政治とカネの問題で、潔く辞めていけばいくらプラスに働いたと思う。しかし、「職を賭して」と発言した以上、せめて任期の半分でも勤めて欲しかった。いまだに普天間基地問題などマニフェストとして掲げた問題も山積したままなのに、やめてしまうのは明らかに無責任なのでは?(20代男性)
- 「期待していたのに裏切られた」という人が周りに多いからです。でもそんな事言ってる国民が一番悪い! 「誰がなっても同じ」とか言って政治に関心を持たない国民がこの結果を招いたんですよ!(20代女性)

TOKYO FMの「MOBILE JUDGE」サイト(以下ページを下方にスクロール)

<http://www.tfm.co.jp/news/>

※ 本アンケート結果は、ご自由に引用ください。その場合は「TOKYO FM リスナー調査」のクレジット入りをお願いいたします。

番組紹介

TOKYO FM「TIME LINE」(月曜～木曜 19:10-19:25 放送/ワイドプログラム『JOG LIS+』内)

その日に起こった主なニュースをわかりやすい解説で伝えるとともに、気になるニュースを、ニュースの周辺で生きる人たちの肉声や識者による明日への言葉で掘り下げていくニュース・プログラムです。

レギュラーコメンテーターとして、月曜:星 浩(朝日新聞編集委員)、火曜:岸博幸(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究課教授)、水曜:矢野貴久子(カフェグローブ代表取締役社長)、木曜:上杉隆(ジャーナリスト)が登場、知的好奇心の旺盛なリスナーに対して、ストレートニュースにとどまらず、ひとつのニュースを複眼的に捉え、一般報道に埋没しがちな事象の本質に迫ります。